



スピーチコンテスト優勝者と国越大学研修生の送別会

本社:〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908 TEL(0748)32-5111(代) FAX(0748)32-3339 / 東京支店:〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 TEL(03)5772-6073(代)

## 海外事業



### 友好都市締結35周年記念式典に参加

2018.11.12 ~ 2018.11.13

中国

滋賀県では三日月県知事を含む約200名の交流団を結成し、湖南省で開催された記念式典と「湖南省水環境フォーラム」に参加。当社からは社長 村田弘司をはじめ3名が赴きました。

同省と当社は研修生の受け入れなどで繋がりが深く、中国で予定されているダイオキシン類生物検定法ケイラックス®法(中国名:科楽世)の公定法化に先立ち、式典では「湖南省環境監測中心站と株式会社日吉の協力」「湖南科博検測有限公司と株式会社日吉の協力」と銘打った官民、民民連携による技術協力の締結を行いました。

「洞庭湖-琵琶湖 水生態持続可能な発展シンポジウム」の開幕式では、挨拶に立った三日月県知事が本交流活動をご紹介くださるなど、当社の社名と活動の周知が広がりました。



#### ケイラックスの公定法化



ダイオキシン類生物検定法ケイラックス®法は、当社が日本ではじめて導入し、国内研究に留まらず、国際間で環境、飼料、食品、生体等の媒体の共同検証・調査を数多く行なってきました。そうした実績が認められ、2005年9月に環境省より日本の公定法として認定されています。



### JICA案件化調査環境セミナー開催

2018.10.30

インド



2018年5月に始まったインドでの「遠隔監視システムを用いた生活排水処理施設の総合維持管理事業案件化調査」の一環として、10月30日にAIEMA TECHNOLOGY CENTER(チェンナイ)で「排水処理と維持管理の重要性セミナー」と題したセミナーを開催。



セミナーでは日本の公害からの教訓、維持管理の重要性、本事業の概要と結果、そして遠隔監視システムについて発表。現地企業の代表者ら総勢70名が参加。今後は、本調査を元に、地域の水環境を改善すべく活動を続けていきます。

#### インドにおける排水処理の現状

インドにおける生活排水の多くは、処理施設の能力不足や維持管理技術の未熟さなどにより適切に処理されないまま環境中に排出されており、周辺の水環境はもとより衛生面の悪化を引き起こしており、深刻な問題となっています。

当社は処理施設のハード面における適正化だけでなく、その後継続して水質を維持できるようにするための、人材管理の能力向上といったソフト面の充実に取り組み、水質を向上し、地域水環境の改善ができる体制の構築をめざしています。



日本本社による遠隔監視



現地の生活排水処理施設





## 当社が支援するスピーチコンテストの優勝者がインドから来日

2018.10.15～2018.10.25

今年で24年目を迎えたスピーチコンテストが8月に開催されました。日印相互文化の交流と環境破壊への問題提議を目的として毎年開催されており、今年は241名の参加者の中から部門別に4名の優勝者が選ばれました。英語部門のMs.U.S.Anandhitha(22歳)、日本語部門のMs.S.AishwaryaLakshmi(17歳)、タミル語部門のMs.S.Logeswari(16歳)とMr.J.Nagenthiran(17歳)です。4名は10月15日に来日。廃棄物、排水処理、分析などの環境学習を行い、週末は社員と滋賀・京都の観光を楽しみました。

また、近江八幡市の文化や環境の素晴らしさを学んでもらうために、和船に乗ったり、よし笛づくりに挑戦したり、様々な体験を提供。帰国後の学びがさらに充実し、母国の環境改善に役立つ人材として成長していくことを願っています。



スピーチコンテストは、インドのABK-AOTS同窓会と当社の共同企画として1995年に始まりました。以来、当社がスポンサーとしてABK-AOTSと協力し、環境に関するテーマのスピーチコンテストを毎年開催。インド国内でも注目度が高く、環境への想いを伝える機会になっています。

## 今年で2年目、日越大学インターン生受入れ

2018.10.22～2018.10.25

今年は、3名の日越大学（ベトナム）の学生、Tran Dieu Linh、Le Van Son、Vu Thi Thomが立命館大学で2ヶ月間の留学中、内4日間当社にて研修を受けました。

研修生たちは大学で各々化学・地質環境・地質工学を学んでおり、日本の水処理の実情を学ぶため水処理施設の見学や、環境学習として廃棄物処理体験をするなど日吉が行う環境サービスを体験しました。



## 中国とマレーシアの大学院生18名が揮発性有機化合物の研修で来社

2018.10.30

清華大学(中国)とマラヤ大学(マレーシア)の大学院生、総勢18名が揮発性有機化合物(VOC)の研修で当社を訪れました。この研修は2011年に始まり、今年で8回目を迎えました。

VOCの概要説明や検体の採取方法と前処理方法の実習、GC/MSによる測定と解析の説明など、密度の高いプログラムを実施。

研修生がVOCのみならず、環境分析全般に目を向け、今後の環境改善を支える人材に成長してくれることを願い、研修生のこれからの活躍に期待しています。



## 国内の大学・大学院インターン生受入れ

2018.8～2018.12

8～12月の期間に、12名のインターン生を受入れました。

インターン生の研修内容は各々が学びたい目的に合わせて6部署から研修先を選択。今回は環境部・管理部・技術部・薬品部・総務部で受入れを実施。

インターン生は、社会における当社の役割や将来的な展望、普段の業務中の雰囲気などを感じながら研修を行いました。



### Internの声



この研修で気づいたことが2つあります。1つ目は、環境関係の仕事に面白さを感じたこと。もう1つは、あいさつと声かけの重要性です。上司と部下との距離が近く、若手社員が育ちやすいような環境も魅力で、就職できれば成長できると感じました。

実験室で測定を行っている社員の方々の手つきは素早く、大学で実験を行う私たちとの意識の違いに驚かされました。実験手順だけでなく、データの管理体制に関しても様々な段階で効率化がはかられており、今後の自分の実験に生かせることが多く学べました。





## 琵琶湖博物館で環境研修会を開催 2018.8.4

「子どもたちに身近にある環境問題を理解してもらい、今できることをやる」を目的として、地域の小学生を対象に開催しました。

今年度は、「便利なモノを正しく使用する」をテーマとして、融雪剤と同じ性質をもつ塩を使い、氷が溶ける原理や氷が作れる原理を実験を通して学びました。

子どもたちからは、身近にある塩と水で氷を作れることに驚いたなどの感想がありました。



## はちまんフェスタ2018で環境学習教室を開催 2018.7.28

「音の不思議」と題し、糸電話を使い、遊びを交えながら音の原理について学ぶ環境学習教室を開催しました。来場者は2歳児から小学校高学年の子どもまで多数。大半は初めての糸電話に驚きや興奮を隠せない様子。

また、釣り糸や毛糸、針金やワイヤーといった素材による伝わり方の違いや、長いものでは15mの糸電話でも声が届くことを実感していました。「科学する心」はやがて環境を守ろうとする意識につながると考えています。



## 牧浄水場夏季見学会に出展 2018.7.21

近江八幡市上下水道課が主催、150名あまりの市民が来場。当社は水の浄化実験とイケチョウガイの展示、給水車の公開展示を行いました。

浄化実験では、飲料水に不可欠な処理や汚濁水の浄化プロセスを紹介。イケチョウガイの展示では、生物による浄化の説明、貝の中に真珠が入っていることをお伝えしました。給水車の実演展示では、上下水道課の担当者様と協力し、タンクへの注水後、給水車に連結した救急用給水栓から水を供給するデモを行いました。酷暑も手伝い、来場者に喜ばれました。

## 「ストップ横断歩道」啓発活動 2018.7.20

横断歩道の決まりを再認識してもらうため安全運転管理者協会が「ストップ横断歩道」ステッカーを制作。県下の各支部から配布された事業所が中心となり、「ストップ横断歩道」を実践することが目的です。当社ではステッカーを早速一般廃棄物収集車に貼り、ドライバーの意識向上に役立てました。走行中の様子などが、びわ湖放送・ZTV(ケーブルテレビ)で放映されました。



## 八幡堀清掃作業 2018.10.2

今年も、新入社員が八幡堀の清掃活動に参加。観光物産協会が主催する活動の一環として「ほっとタウンクリーン作戦」の名で親しまれています。

刈り終えてすっきりした川沿い、刈り取った草を運ぶ手こぎ船に、この街ならではの風情を再確認しました。



## 東近江防火保安協会防火保安協会の防災協力事業所に登録 2018.9.14

防災協力事業所登録制度とは、事業所が保有する施設や資機材、組織力を貴重な防災力と位置づけ、事前に協力・支援する役務等を登録し、災害発生時は出来る範囲内で防災活動に協力し、被害の軽減や地域生活の早期復旧のため、貢献することを目的としています。

当社は資機材の提供として保全課の給水車を登録しました。





## 資格登録

### JGAP推進検査機関認定取得 2018.5.28

JGAP (Japan Good Agricultural Practice) は食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証で、日吉はこの度GAP申請・取得後に係る農作物の残留農薬検査の推進検査機関として認定されました。国際水準を満たす食品調達が求められるオリンピックの東京での開催を2020年に控え、国内のJGAP認定ニーズが高まっています。



### し尿汚泥肥料「稔」農林水産大臣登録 2018.8.27

当社が生産するし尿汚泥肥料が農林水産大臣の肥料登録を受け、独立行政法人農林水産消費安全技術センター (FAMIC) の農林水産大臣登録銘柄検索システムに「稔」として掲載されました。

当社ならではの温室効果ガス削減とアグリカルチャーへのアプローチです。



## 講演

### 知的財産権のセミナーを実施 2018.10.19

びわ湖環境ビジネスメッセ2018の最終日、「知的財産権を標準化とした事業化の取組について～中小企業の環境サービス産業において～」と題し、当社の社長 村田弘司が環境分野における知的財産権の活用について講演しました。当社が保有する多くの知財を、いかにして事業に取り入れて来たか、あるいは知財を活かすことは収益性と企業価値の最大化をはかる戦略の一つであるという実践を通じた経験談に多くの参加者が強い関心を示しました。



### 経営層人権啓発講座にて事例報告 2018.9.14

大阪市中央公会堂で開催された大阪市委託事業「経営層人権啓発講座」にて当社の総務課長 大角浩子が登壇。大阪市の人権を尊重した企業経営 (CSR) を推進するため、大阪市内の事業主、経営層を対象に、最新の人権課題や人権に関する法制度の動向に対する理解の促進を目的としています。今回は、「ダイバーシティ経営」というテーマのもと、「環境産業に見る中小企業のダイバーシティ～四方よしの考えのもとに～」と題し、事例発表を行いました。



## 展示会

### 第17回世界湖沼会議に参加 2018.10.15～2018.10.19

茨城県つくば市の国際会議場で、第17回世界湖沼会議が開催され、来場者は4000人を上回りました。当社技術部顧問 近藤昭宏が、第1分科会 (生物多様性と生物資源) で演題「琵琶湖のオオバナミズキンバイの駆除方法の検討」を発表。

繁殖力が旺盛なことが琵琶湖で大きな問題となっている外来水草の駆除方法に関する発表は、多くの関心を集め京都新聞や中日新聞にも取り上げられました。



### 第1回環境DNA学会東京大会出展 2018.9.29～2018.9.30

当社は企業展示に出展し、山中先生 (龍谷大学) や源先生 (神戸大学) らと当社で特許出願中の「eDNA Protector」という環境DNAの保存剤を展示紹介しました。



### 食品開発展2018に出展 2018.10.3～2018.10.5

当社は、国内最大級となる700項目対応可能な「残留農薬検査」をはじめ、「清涼飲料水・ミネラルウォーター水質検査」やWEBと連携したオンライン検査電子報告システム「アナレボ®」のPRを行いました。



### びわ湖環境ビジネスメッセ2018 出展 2018.10.17～2018.10.19

今年のテーマはSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)。出展ブースではテーマに沿って当社を紹介できる「環境技術で社会を支える」と「当社の歴史に見るSDGs」、測ることから始まるワンストップサービスをアピールする「トータルサポート」、そして滋賀県が抱える環境問題の解決をめざす「オオバナミズキンバイの駆除方法の検討」についてポスターを掲示し、持続可能な社会への技術的貢献に対する意欲を示しました。



- 用紙: 琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付びわ湖環境ペーパー 適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ: 環境配慮型インキ (植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷: 有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造・廃棄に発生するCO2を滋賀県内の排出削減事業者のクレジットによりカーボンオフセット済
- CO2排出量: 278kg/3,000部